

## 短 報

ハナタネツケバナの分布（神田房行<sup>a</sup>，富士田裕子<sup>b</sup>，辻井達一<sup>c</sup>）

Fusayuki KANDA<sup>a</sup>, Hiroko FUJITA<sup>b</sup> and Tatsuichi TSUJII<sup>c</sup> : Distribution of *Cardamine pratensis* L. in Japan

ハナタネツケバナ (*Cardamine pratensis* L.) は1979年人見によってキリタツプ湿原から採集され，わが国にも分布することがわかった。しかし，このことは新聞報道（読売新聞1979年3月3日付）されたのみで学術的には発表されていなかった。その後現在まで，北海道東部の数カ所で標本が採集されている。最近われわれは厚岸のベカンベウシ川流域の高層湿原の周辺の低層湿原域でハナタネツケバナを採集した。そこで，これまで採集された標本をリストアップし，標本に基づいてそれらの採集地を図示することにした。

表1にこれまでわが国で採集されたハナタネツケバナの標本の採集地，採集年月日，採集者，標本の所蔵場所を示した。同一地域で複数の採集者によって標本がとられている場合は最も古いものだけを掲げた。図1に採集地を示した。地域としては釧路湿原，白糠コイトイ湿原，厚岸ベカンベウシ湿原，キリタツプ湿原，網走の濤沸湖畔が主な採集地域である。

1979年人見によって採集された事が報道された後，網走で1971年にすでに採集されていたことが疑問符付きで報道された（北海道新聞1979年3月14日付）。最近その標本を確認したところハナタネツケバナに間違いなかったことがわかった。従って，わが国での最初の採集記録は1971年ということになる。

ハナタネツケバナは北極海に面したユーラシア大陸や北アメリカ大陸のツンドラからタイガにかけて広く分布している（Porsild 1957, Wiggins and Thomas 1962, Tutin et al. 1964, New York Botanical Garden 1966, Hultén 1968, 野田 1971, Czerepanov 1973）。わが国の周辺ではサハリンに分布していることが，工藤（1924）や菅原（1940）によって報告されており，国立科学博物館には千島の標本がある。わが国のものについて伊藤（1981）は「北海道の高山植物と山草」の中で網走で撮影された写真を紹介し，簡単な記載をしている。滝田（1987）も白糠のコイトイ湿原で採集

Table 1. List of specimens of *Cardamine pratensis* L. collected from Japan.

No.	Collection site	Date	Collector	Herbarium
1	Lakeside of Tofutsu (Abashiri-shi)	June 26, 1971	K. Yamada	Private
2	Kiritappu (Hamanaka-cho)	June 16, 1979	J. Hitomi	Kushiro City Museum
3	Koitoi (Shiranuka-cho)	June 14, 1981	K. Takita	Kushiro City Museum
4	Kottaro (Shibeche-cho)	June 17, 1983	H. Shinsyo	Kushiro City Museum
5	Poroto (Hamanaka-cho)	June 19, 1988	Y. Takashima	Kushiro City Museum
6	On-nenai (Tsurui-mura)	June 17, 1991	Y. Takashima	Kushiro City Museum
7	Bekanbeushi (Akkeshi-cho)	June 18, 1991	H. Fujita and F. Kanda	Botanical Garden of Hokkaido Univ.

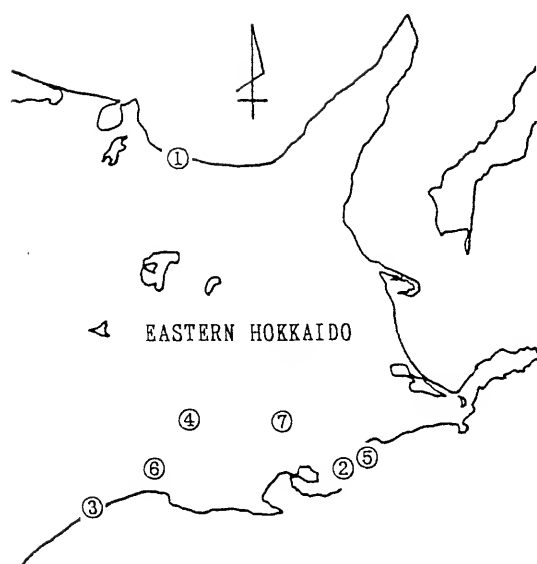


Fig. 1. Distribution of *Cardamine pratensis* L. The number in the map indicates the specimen number showing in Table 1.

した標本に基づいてスケッチと簡単な記載を行っている。

ハナタネツケバナが北海道東部の太平洋岸の湿原と網走にのみ分布していることは興味深いことである。伊藤 (1981) はこの点についてサハリンから南下してきた植物のうちサハリンから北海道の東側へ分布した植物のひとつであろうとしている。しかし、なぜオホーツク海の稚内から網走にいたる低湿地には分布しないで一気に網走付近の湿地から、釧路や根室地方の湿原へと不連続に分布するのかについては疑問が残る。筆者らはハナタネツケバナがユーラシア大陸では東シベリアからカムチャッカ半島を経て千島へと突出するよう

に分布していることから (Hultén 1968), 千島列島を経由して網走や根室、釧路地方の湿原に渡ってきたのではないかと考えている。

#### 引用文献

- Czerepanov S. K. 1973. Additamenta et corrigenda ad «Floram URSS». Nauka, Leningrad.
- Hultén E. 1968. Flora of Alaska and neighbouring territories. Stanford University Press, Stanford.
- 伊藤浩司 1981. 北海道の高山植物と山草. 誠文堂新光社, 東京.
- 工藤祐舜 1924. 北樺太植物調査書. 薩哈噠軍政部.
- 野田光蔵 1971. 中国東北区 (満州) の植物誌. 風間書房, 東京.
- Porsild A. E. 1957. Illustrated flora of the Canadian arctic archipelago. National Museum of Natural Sciences, National Museums of Canada, Ottawa.
- 菅原繁蔵 1940. 樺太植物図誌 (第3巻). 樺太植物図誌刊行会, 東京.
- 滝田謙讓 1987. 東北海道の植物. カトウ書館, 釧路.
- The New York Botanical Garden 1966. Wild flowers of the United States, Volume I: The north-eastern states. Russell-Rutter Co. Inc., New York.
- Tutin T. G., Heywood V. H., Burges N. A., Valentine D. H., Walters S. M. and Webb D. A. (ed.) 1964. Flora Europaea. Cambridge at the University Press.
- Wiggins I. L. and Thomas J. H. 1962. A flora of the Alaskan arctic slope. University of Toronto Press.
- (<sup>a</sup>北海道教育大学釧路分校生物学教室, <sup>b</sup>北海道大学農学部附属植物園, <sup>c</sup>北海道大学農学部農林生態学研究室)

## トカラ列島植物覚書 (1) (大場秀章)

Hideaki OHBA: Notes on the Flora of Tokara Islands (1)

屋久島と奄美諸島の間に位置するトカラ列島は、熱帯と温帯の植物相の境界地域としてその植物相が注目されるところである。初島住彦博士は1974年に「トカラ列島の植物相」を「鹿児島島の植物No. 3」に発表された。それは詳細を尽した目録をと

もない、トカラ列島の植物相の実体を知り得る唯一の論文である。筆者は生物地理学の観点から長らくトカラ列島の植物に関心を抱いてきたが、1991年3月口之島・中之島・諏訪之瀬島を訪ねる機会をもった。本覚書はその時の調査にもとづく。